

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【教養領域：人文系科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
人01	人間と哲学の知	2	2-0	1~4	前又は後	西洋哲学の基本的な領域を概観しつつ、人間と世界について考える。	
人03	思考の論理入門	2	2-0	1~4	前又は後	論理学の基本的な領域を概観しつつ、人間の論理的な思考について考える。	
人04	思考の論理	2	2-0	1~4	前又は後	論理学を概観しつつ、人間の論理的な思考について考える。	
人05	西洋思想とインドの思想	2	2-0	1~4	前又は後	西洋思想とインド思想を比較検討しつつ、それぞれの思考様式を明らかにする。	
人06	西洋思想と日本・中国の思想	2	2-0	1~4	前又は後	西洋思想と日本・中国の思想を比較検討しつつ、それぞれの思考様式を明らかにする。	
人08	人間と倫理	2	2-0	1~4	前又は後	倫理学を学びつつ、人間について考える。	
人09	環境の哲学	2	2-0	1~4	前又は後	環境の保全と保存、土地倫理、共有地の悲劇と救命艇倫理、宇宙船倫理、世代間倫理等、環境倫理学における種々の考え方を検討し、さらに、その背景をなす人間観、自然観等を考察する。	
人10	心の哲学	2	2-0	1~4	前又は後	本講義は心をめぐる哲学的な問題を論じるものであり、今日では「心の哲学」と呼ばれる分野を成している。近代以降の心身二元論から21世紀の最先端の話題について、幅広くカバーし、「心」の本性について哲学の立場から論じる。	
人11	心の科学	2	2-0	1~4	前又は後	人間の心と行動を科学的に理解するために、知覚、学習、記憶と思考など、心理学の基礎的側面を中心に概説する。	
人12	人間関係論	2	2-0	1~4	前又は後	人間の発達、パーソナリティ論、社会行動などを通して、自己と他者、対人関係についての理解を心理学的に深めることを目的とする。	
人15	犯罪心理学入門	2	2-0	1~4	後	犯罪心理学の理論を、個人の特性に焦点をあてた理論、家族などの親密な人間関係に焦点をあてた理論、社会の構造や特性に焦点をあてた理論、心理学の原理を用いた理論などに分類して概説し、具体的な犯罪について解説する。また、犯罪者の更生についても概説する。	
人16	比較思想文化論	2	2-0	1~4	前又は後	世界には様々な思想や文化が存在している。どのような思想や文化も地域性や時間性という制約の下にある。それ故、それらの違いがまず強調されるであろう。しかし、それらの中には共通性も見出されうる。本講義では、世界の思想や文化を、比較という観点からその共通性や相違に着目して、論じる。	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【教養領域：人文系科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
人17	生命倫理	2	2-0	1~4	前又は後	生命倫理学を中心に、安楽死と尊厳死、脳死と臓器移植、クローン、ケア論等について検討し、あわせて生と死、人間等について考えてみたい。	
人18	宗教と世界	2	2-0	1~4	前又は後	世界の主要な宗教について、その教義や歴史などを概説する。宗教が関係する諸問題についても取り上げる。	
人19	人間と宗教	2	2-0	1~4	前又は後	多くの宗教に共通する一般的な特徴を中心に紹介しながら、人間にとって、あるいは社会にとって宗教とはどのような意味・役割をもつかについて考える。	
人20	人間観と教育	2	2-0	1~4	前又は後	多様な教育についての考え方を、それを根底で支える人間観と共に紹介し、現代にふさわしい人間観、および教育のあり方について考える。	
人21	近代日本の社会と表現	2	2-0	1~4	前又は後	各時代を代表する作品を取り上げ、作品が時代をどのように浮かび上がらせたか、又、作品が時代によって、どう読まれたかを探る。	
人22	日本古典文学の世界	2	2-0	1~4	前・後	「今昔物語集」を中心に説話文学を学ぶ一方、日本と琉球の民俗現象や類似の文芸について学ぶ。	
人23	文学の楽しみ	2	2-0	1~4	前	大衆文学の代表的作家(司馬遼太郎、松本清張、水上勉等)を取り上げ、彼等の作品が何故、多くの人々に愛され読まれているか、その魅力を探っていく。	
人24	小説の社会学	2	2-0	1~4	後	小説を“社会”とのかかわりで読解し、ある集団・国民の意識、神話、ある時代の文化、精神構造を探る手がかりとする。	
人25	ことばの生態	2	2-0	1~4	前又は後	私たちは「ことば」を使って生きている。「ことば」は社会生活・文化活動を営む上での基礎となっている。一見自明に見える「ことば」、その「ことば」の本質、生理、認知、機能及び生活の中の「ことば」について考察する。	
人26	ことばの構造と意味	2	2-0	1~4	前又は後	意思疎通の優れた手段としての言語の仕組みがどのようなものなのか、意味とは何かなど日本語なり、英語なりの個別言語の体系と意味を考察し、その深層を探る。	
人27	日本語のしくみ	2	2-0	1~4	前・後	日本語の発生、系統をはじめ、その文法、音韻等について体系的なしくみを学ぶと共に、日本語の現在、及び日本語研究の問題点を考察していく。	
人27-1	日本語のはたらき	2	2-0	1~4	後	社会言語学的な側面から、日本語の使用実態や、バリエーションについて考えていく。グループ活動を重視した授業展開を予定している。知識を受け身で得るのではなく、自ら探究する姿勢を重視する。	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【教養領域：人文系科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
人28-1	中国古典文学の世界	2	2-0	1~4	前・後	中国の文学は、その時間的なスケールの長さや内容の多様さにおいて世界に類を見ない豊かさを持っている。漢字に載せて運ばれた思想と美的表現は周辺の国々に強い影響を与えてきた。日本の文学を理解するうえで中国の文学、歴史、思想等を理解することは、基本的な前提条件である。本授業では中国の古典文学について講義する。	
人28-2	20世紀の中国文学	2	2-0	1~4	前・後	中国の文学は、その時間的なスケールの長さや内容の多様さにおいて世界に類を見ない豊かさを持っている。漢字に載せて運ばれた思想と美的表現は周辺の国々に強い影響を与えてきた。中国の近現代文学にはこの国の社会的、歴史的な条件の中で翻弄された人々の思想と生活が反映されている。本授業では中国の近代・現代文学について講義する。	
人30	アメリカの文学と近代社会	2	2-0	1~4	後	アメリカ近代文学の主要作品の講読・解説を中心に南北戦争から現代に至るアメリカの文学と社会及び文化について考える。	
人31	日本語研究入門	2	2-0	1~4	前又は後	普段何気なく話している日本語、そこには母語話者ほど気づきにくいさまざまな謎や仕組みが隠されている。この授業では、グループ活動を通して、日本語研究のさまざまなテーマに触れる。「答えがすぐには見つからない」ことの面白さを知ることも、この授業の目的の一つである。	
人35	歴史を知る	2	2-0	1~4	前又は後	歴史学には、日本史・東洋史・西洋史・考古学といったさまざまな分野がある。それらの分野のなかから、いくつかのテーマに焦点をあわせて、歴史について新たに知ることをねらいとする。	
人36	歴史を探る	2	2-0	1~4	前又は後	歴史学には、日本史・東洋史・西洋史・考古学といったさまざまな分野がある。それらの分野のなかから、いくつかのテーマに焦点をあわせて、さまざまな視点から歴史について探ることをねらいとする。	
人37	歴史を見る	2	2-0	1~4	前又は後	歴史学には、日本史・東洋史・西洋史・考古学といったさまざまな分野がある。それらの分野のなかから、いくつかのテーマに焦点をあわせて、新たな視点から歴史を見ていくことをねらいとする。	
人38	歴史を考える	2	2-0	1~4	前又は後	歴史学には、日本史・東洋史・西洋史・考古学といったさまざまな分野がある。それらの分野のなかから、いくつかのテーマに焦点をあわせて、歴史について考えることをねらいとする。	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【教養領域：人文系科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
人39	歴史を深める	2	2-0	1~4	前又は後	歴史学には、日本史・東洋史・西洋史・考古学といったさまざまな分野がある。それらの分野のなかから、いくつかのテーマに焦点をあわせて、歴史についての理解を深めることをねらいとする。	
人40	歴史を学ぶ	2	2-0	1~4	前又は後	歴史学には、日本史・東洋史・西洋史・考古学といったさまざまな分野がある。それらの分野のなかから、いくつかのテーマに焦点をあわせて、歴史について学ぶことをねらいとする。	
人41	歴史を掘る	2	2-0	1~4	前・後	土の中から掘り出される遺跡・遺物を通して人類の歴史を解き明かす方法を考える。	
人46	考古学入門	2	2-0	1~4	前・後	考古学は、物質資料（遺跡・遺物）から、過去の人類の生活を究明する学問である。本講義では、考古学研究の歩みを踏まえながら、調査の方法、分析の方法や基本的な考え方をわかりやすく整理し、遺跡・遺物から何がわかるかを具体的に学ぶことを目的とする。	
人52	美術の世界	2	2-0	1~4	前・後	美術の広範な領域から特定の課題を設定し講義する。（クラス毎に内容が異なることがあるので共通教育等科目授業計画書に注意すること。）	
人55	コーラルアンサンブルの楽しみ	2	0-2	1~4	前・後	合唱を通して、歌唱に必要な呼吸法・発声法・音楽表現法を学ぶとともにアンサンブル力向上の過程で必要とされるメンバーの相互理解・協調性を陶冶し、豊かな人間性形成を目指す。	
人56	楽しく学ぶギター弾き語りⅠ	2	0-2	1~4	前	ギターの持ち方、調弦法、ハ長調やト長調の基本コードのポジションの学習から始め簡単な弾き歌いを修得する。	
人57	楽しく学ぶギター弾き語りⅡ	2	0-2	1~4	後	前期に続きギターの弾き歌いのテクニックを学習する。前期の内容を発展させ、扱う調性・コードを増やし、さらに詳しく学習する。	隔年開講
人58	ステージスタッフ総合活動	2	0-2	1~4	前	総合舞台芸術を陰で支えるステージスタッフの存在無くしてはいかなるステージ・パフォーマンスも成り立たない。この授業では、背景画・美術道具・衣裳・メイクサポートなどを演習をとおして学び、集団活動をとおしての自律性・問題解決能力・社会性・コミュニケーション力を身につけていく。	
人61	美術と社会	2	2-0	1~4	後	私たちを取り巻く環境そしてそれぞれの経験から成る表現活動を人類の、文化の流れと共に考察する。美術史上及び現代の作家による作品やプロジェクトを検討する。	
人64	陶芸の世界	2	2-0	1~4	前又は後	縄文時代から今日まで、人々はどのように「やきもの」とかわり、発展させてきたのか。その技術的特徴や造形性の変遷について、日本での成り立ちを軸に概説する。	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【教養領域：人文系科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
人65	オーケストラの楽しみⅠ	2	0-2	1~4	前	オーケストラの持つ魅力に親しむことを目的とし、受講生の選択楽器および演奏経験等を考慮した上で編成を組む。ハーモニー練習などアンサンブル基礎練習を行った後、楽器編成に合わせて古典派の楽曲を中心に演奏・研究する。講義を通してパート練習、セクション練習を積み、最終的に合奏へともっていく。	
人66	オーケストラの楽しみⅡ	2	0-2	1~4	後	前期から行なっているハーモニー練習などアンサンブル基礎練習を継続的に行った上で、ロマン派の楽曲を中心に演奏・研究する。 前期に引き続き最終的に合奏へもっていくため、パート練習、セクション練習を積むことが必要となる。	
人71	心理学入門Ⅰ	1	2-0	1~4	前又は後	心理学は心の諸現象を科学的に研究していく学問である。そしてそれはどの学問分野を専門として学ぶにしても、多かれ少なかれ必要となってくる学問であると言えるだろう。よってここでは知覚、認知、発達など心理学の基本的な事項について学ぶ。	クォーター科目
人72	心理学入門Ⅱ	1	2-0	1~4	前又は後	心理学は心の諸現象を科学的に研究していく学問である。そしてそれはどの学問分野を専門として学ぶにしても、多かれ少なかれ必要となってくる学問であると言えるだろう。よってここでは性格、動機、学習など心理学の基本的な事項について学ぶ。	クォーター科目
人73	共生社会にむけたアクセシビリティ	2	2-0	1~4	前	障がいの有無や年齢、文化等の個人の多様性についての知識を深める。そして、見る・聞く・移動するなどの多様な角度から社会的障壁を理解し、それを取り除くために必要な思考性を獲得することを目的とする。	
人74	アクセシビリティ演習	2	2-0	1~4	後	障がいの有無や年齢、文化等の個人の多様なニーズについて理解した上で、学びやすい・過ごしやすい環境を整えるためのコーディネートや社会的障壁に対する対応能力の取得を目的とする。	
人75	ヒューマニティ系SDGs演習	1	0-2	1~4	前	持続可能な開発目標SDGsに積極的に取り組む人材育成のための学修プログラムであるグローバル津梁の応用段階(Level 2)として、ヒューマニティ系SDGsのターゲット、指標を活用した調査分析を実践する。	クォーター科目
人76	ボランティアデザインⅠ	2	2-0	1~4	前	多様性を志向する現代社会において、様々なニーズへの対応力がある人材が求められている。障がいを社会モデルとして捉え、環境を整えるためのコーディネート力、および社会的障壁に対する対応能力を獲得することを目的とする。 本講義では、グループワークを通して障がい種別における社会的障壁を調査し、それを解消するアクセシビリティを考案する。	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【教養領域：人文系科目】

科目 番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	講 義 内 容	備 考
人77	ボランティアデザインII	2	2-0	1~4	後	多様性を志向する現代社会において、様々なニーズへの対応力がある人材が求められている。障がい者社会モデルとして捉え、環境を整えるためのアクセシビリティの向上や啓発を目的としたプロジェクトを実際に企画立案することを目的とする。	
人91	人文系特別講義I	2		1~4	前	開講時に公示する。	集中講義
人92	人文系特別講義II	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【教養領域：社会系科目】

科目 番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	講 義 内 容	備 考
社01	法と社会	2	2-0	1~4	前・後	法の概念、目的、効力、適用など、法と社会の諸問題について考える。	
社02	憲法概論	2	2-0	1~4	前・後	憲法についての基礎的知識及び日本国憲法の概要。	
社03	現代政治の課題	2	2-0	1~4	前・後	現代の日本政治を多面的に分析し、そこから日本政治の課題を導き出し、解法の方法を提示する。その際、日本の政治風土、政治文化についても論及し、日本の政治像の全体的な把握を目指す。	
社04	日本の政治	2	2-0	1~4	前又は後	政治学には政治理論、政治史、政治思想史、政治制度、政治過程、政党制、公共政策、地方自治などの様々な分野が方撮されるが、これらをわが国の政治状況に焦点を絞って考察することによって、日本の政治に関する関心と基礎知識を養う。	
社06	戦争と平和の諸問題	2	2-0	1~4	前・後	「戦争を防ぎ、平和を達成するにはどのようにすればよいのか？」という問題意識に基づき、広く戦争と平和に関する諸問題を扱う。さまざまな角度から21世紀国際社会に平和を定着させる方法を考える。	
社11	地域と生活	2	2-0	1~4	前・後	地域と人々の暮らしとの関わりを、人文、自然の両面から考察する。	
社12	現代社会のしくみ	2	2-0	1~4	前・後	現代社会のしくみと変動について、沖縄の事例も取り入れながら考察する。	
社13	マスコミと社会	2	2-0	1~4	前・後	現代社会におけるマスコミと大衆の関わりについて沖縄の事例も取り入れながら考える。	
社15	人類文化の比較	2	2-0	1~4	前・後	家族と親族、宗教と世界文化とパーソナリティ等、人類文化の諸分野について比較考察する。	
社19	ジェンダー学とインターセクショナリティ	2	2-0	1~4	後	ジェンダー学とインターセクショナリティの基礎的視座、概念、理論、方法論について学び理解を深めつつ、身近な地域や国内外における文化、社会、政治に表象されるジェンダーの課題を特定し、その問題解決に向けて議論を深める。	
社21	現代経済のしくみ	2	2-0	1~4	前・後	現代社会を構成するミクロ・マクロの経済主体の行動と市場メカニズムを学ぶことにより、経済の資源配分のしくみと雇用・物価・生産の変動というマクロ経済の変動メカニズムを探求する。	
社22	経済の歴史	2	2-0	1~4	前・後	人類の悠久の歴史は、人と人との織り成す歴史である。この中でも資本主義の成立過程は激烈であった。そこで本講義では、資本主義がどのような歴史過程を経て成立したのかをとらえる。	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【教養領域：社会系科目】

科目 番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	講 義 内 容	備 考
社23	現代企業のしくみⅠ	2	0-2	1~4	前・後	現代企業のしくみについて、経営分野・マーケティング分野の観点から講義を行う。 ケースやデータ等を利用して企業活動を基礎から学ぶ講義であり、専門分野を問わずに幅広い学生を対象とする講義である。	
社24	ベンチャー起業入門	2	2-0	1~4	前	産学官連携による沖縄ビジネスアイデアコンテストと連動した実践的な講義により、起業に関する基本的な知識の習得のみならず、課題解決能力や自己表現力等、キャリア形成及び就業力の育成につながる起業家マインドと行動パターンを学ぶ。	
社25	ベンチャー起業実践	2	2-0	1~4	後	問題解決型学習（PBL）を通じて、本学の研究シーズ、地域企業の課題、アイデアコンテストの入賞作品等をテーマとし、具体的なビジネスプランを作成する。 チームを編成し、仮想的に会社を立ち上げて、金融機関や企業、その他支援団体等へプレゼンを行う等、ビジネスプランの事業化のプロセスを体験する。	
社26	現代企業のしくみⅡ	2	0-2	1~4	前・後	現代企業のしくみについて、会計分野を中心に企業活動のしくみを学ぶ講義となる。 沖縄県の上場企業や各業界のトップシェアを有する企業を題材として、事例やデータ等を利用して企業活動を基礎から学ぶ講義であり、専門分野を問わずに幅広い学生を対象とする講義である。	
社28	現代経済の諸問題	2	2-0	1~4	前又は後	現代社会がかかえる財政、金融、失業環境などの諸問題について平易に概説する。	
社30	大学教育論	2	2-0	1~4	後	大学教育への理解を深めるため、大学の歴史や役割、大学での学び、大学生等について講義し、受講生の間で予習を前提としたディスカッションを行う。	
社31	教育政策史	2	2-0	1~4	後	本講義では、日米の教育政策、教育制度の歴史を比較しながら、教育の市場化やテスト政策の進展といった現代の教育政策上の課題について考察するとともに、これまでの被教育経験を教育政策の観点から相対化する。	
社34	マネジメント系SDGs 演習	1	0-2	1~4	後	持続可能な開発目標SDGsに積極的に取り組む人材育成のための学修プログラムであるグローバル津梁の応用段階(Level 2)として、マネジメント系SDGsのターゲット、指標を活用した調査分析を実践する。	クォーター 科目

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【教養領域：社会系科目】

科目 番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	講 義 内 容	備 考
社35	生命保険実務	2	2-0	1~4	前・後	本講義では、個人生活・企業活動において不可欠な生活保障サービスを提供している生命保険会社の経営活動・商品内容などを通して、生命保険の概念・機能・効果などを概説します。生命保険について学ぶことは、一人ひとりの人生や生活設計を考えるきっかけとなり、また、国民生活にかかる保障システムを理解するうえでも大変有益です。	
社36	損害保険実務	2	2-0	1~4	前・後	本講義では、私たちの生活を取り巻く地震・台風などの自然災害や病気、交通事故や犯罪などの各種リスクに備える経済システムである損害保険が、日常生活や経済にどのような役割を果たしているのかを学び、消費者や社会人として必要な経済的な備えである損害保険の基本的な知識を習得することを目的とします。	
社91	社会系特別講義Ⅰ	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
社92	社会系特別講義Ⅱ	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【教養領域：自然系科目】

科目 番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	講 義 内 容	備 考
自01	大気の科学	2	2-0	1~4	前・後	地球大気現象についての系統だてた解説を通して、現代社会人としての地球科学的知識の向上と、科学的思考法（演繹法）の習練をはかる。	
自02	地球の科学	2	2-0	1~4	前・後	現代の地球上で起きている様々な地学的現象について解説し、46億年の地球史を地球環境と地球生命の変動を中心に概説する。	
自03	海洋の科学	2	2-0	1~4	前・後	地球の海に関する様々なテーマ（地球の海の起源と進化、海水の化学組成とその変遷史、海底の地学、海洋の大循環、海洋の生態系、サンゴ礁など）を取り上げ概説する。	
自11	統計と社会	2	2-0	1~4	前・後	社会で使われている統計を例にしながら、その仕組みを講義する。	
自12	数理の構造	2	2-0	1~4	前・後	現代数学の仕組みについて、幾つかの話題をもとに講義する。	
自13	数の文化	2	2-0	1~4	前・後	数学と社会の関わりについて、幾つかの話題をもとに講義する。	
自21	時間と空間	2	2-0	1~4	前 期	時間と空間に関する物理的理解や人間の宇宙観の変遷などについて概説する。	
自22	人間と物理学	2	2-0	1~4	後 期	生活の中の物理学や物理学の歴史を通して人間と物理学との関わりを考える。	
自32	分子の世界	2	2-0	1~4	前又は後	物質を構成する分子の化学的性質などについて概説する。	
自41	生物の生活	2	2-0	1~4	前・後	さまざまな生物の生活とまわりの環境との関わりに重点をおいて考える。	
自42	生命の科学	2	2-0	1~4	前・後	生命のしくみを細胞レベルから考える。	
自54	沖縄の風景	2	2-0	1~4	後 期	沖縄の自然環境と生活文化により形作られている身の回りの風景を理解するため、自然、伝統、生活、産業、基地、イメージなど、沖縄の風景の持つ多様な側面についての基礎的な知識を習得すると共に、未来の沖縄の風景について考察する。	
自55	社会統計学基礎	2	2-0	1~4	後 期	自然科学、社会科学、人文科学などの調査研究を行うためには、いろいろな科学的分析方法が用いられる。統計学はそれらの科学的分析方法のひとつであり、母集団の特性を推定し、大量のデータの中に存在する法則性を扱う分析方法である。講義でこの理論と実践を習得する。	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【教養領域：自然系科目】

科目 番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	講 義 内 容	備 考
自57	ランドスケープ論	2	2-0	1~4	前・後	海岸線、水、緑地、公園、住宅地、集落などの土地利用のあり方を、ランドスケープの面から考察する。	
自61	地球環境と科学技術	2	2-0	1~4	前 期	今日、地球温暖化をはじめとする様々な環境問題が生じている。本講義では地球環境問題に対する理解を深め、それらの問題を解決するための科学技術について学習する。	
自64	自然環境と土木工学	2	2-0	1~4	後 期	比較的身近な自然環境の仕組みを特に生態学的な視点から解説する。そして、防災と環境保全の関係、環境保全のための土木工学的技術、開発の環境影響とその評価手法等について解説し、自然環境と人との多面的な相互関係とそこでの土木工学の役割について考える機会を提供したい。	
自65	生物資源利用とサイエンス	2	2-0	1~4	前 期	身の回りの生活に関わる農薬・医薬、食品、発酵についてオムニバス方式で講義する。その他、生化学・生命科学に関わる事、特に社会的に注目され問題になっている事を平易に概説する。	
自71	ヒトの健康科学	2	2-0	1~4	前 期	人体の構造や働きを学習し、次いで健康を阻害する諸因子について学習する。すなわち食事、運動、環境社会と健康の関係や、ひとのかかりやすい疾患について、性、年代別に精神的疾患も含めて概説し、疾患を予防し、健康を保持する方法を教授する。健康を害した者の治療法、看護法についても概説する。	
自83	ライフサイエンス系SDGs 演習	1	0-2	1~4	後	持続可能な開発目標SDGsに積極的に取り組む人材育成のための学修プログラムであるグローバル津梁の応用段階(Level 2)として、ライフサイエンス系SDGsのターゲット、指標を活用した調査分析を実践する。	クォーター科目
自84	エンジニアリング系SDGs 演習	1	0-2	1~4	後	持続可能な開発目標SDGsに積極的に取り組む人材育成のための学修プログラムであるグローバル津梁の応用段階(Level 2)として、エンジニアリング系SDGsのターゲット、指標を活用した調査分析を実践する。	クォーター科目
自91	自然系特別講義 I	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
自92	自然系特別講義 II	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【教養領域：健康運動系科目】

科目 番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	講 義 内 容	備 考
健01	健康・スポーツ科学	2	2-0	1~4	前・後	健康とスポーツに関する科学的知見に基づいて、身体運動と人間との関わりについて、健康科学およびスポーツ科学などの各教員の研究領域の立場から論述する。	同一学期に運動・スポーツ科学演習と並行して履修可能。
健03	運動・スポーツ科学演習 (バドミントン)	2	0-2	1~4	前又は後	運動種目別の歴史やルール、個人技術やチーム戦術を、ビデオ教材や実際の運動場面を活用しながら理論的に理解するとともに、各種スポーツ種目の技術戦術の習得・向上をねらいとする。また、体力養成や傷害予防、トレーニング法や健康増進などのスポーツ科学の基本的理解を深めながら、生涯に渡ってスポーツを続ける意義を理解することを目的とする。	1種目のみ履修可。 (複数の履修はできない。)
〃	〃 (テニス)						
〃	〃 (卓球)						
〃	〃 (ゴルフ)						
〃	〃 (サッカー)						
〃	〃 (フットサル)						
〃	〃 (バレーボール)						
〃	〃 (バスケットボール)						
〃	〃 (ハンドボール)						
〃	〃 (水泳)						
〃	〃 (ダイビング)						
〃	〃 (空手)						
〃	〃 (沖縄空手)						
〃	〃 (琉球舞踊)						
〃	〃 (ソフトボール)						
〃	〃 (野球)						
〃	〃 (ニュースポーツ)						
〃	〃 (ラート)						
〃	〃 (アウトド・レクリエーション)						
〃	〃 (ウエイトトレーニング)						
〃	〃 (エアロビックス)						
〃	〃 (フォーク・ソーシャルダンス)						
〃	〃 (マラソン)						
〃	〃 (動作療法)						
〃	〃 (インドア・スポーツ)						

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【総合領域：総合科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
総01	脳の発達と人間	2	2-0	1~4	前又は後	脳の構造・機能・発達と文化や教育との関連について述べる。	
総06	アメリカの文化と社会	2	2-0	1~4	前・後	米国社会の生成、発展、構造、病理等について、社会科学を中心に言語歴史、文化、哲学、教育心理、宗教学等の学際的分野から概説的に解明する。	
総10	住まいの科学	2	2-0	1~4	前・後	気候風土に適した快適な住居とはどのようなものか、安全性、保健性、耐久性及び利便性など住宅の性能について概説する。	
総14	環境問題	2	2-0	1~4	前	沖縄の自然破壊、身の回りから地球環境まで、様々な環境問題についての講義を行う。	
総17	情報科学概論	2	2-0	1~4	前・後	文系、理系、工系といった枠組みを超えたいわゆる境界領域を取り扱う学問分野の一つとして講義を行う。情報化社会の特質やその社会に与える影響、情報活性能力等について講義を行う。	
総20	ヒトの科学と人間の医学	2	2-0	1~4	前	今、医学・医療は大きく変化を遂げつつある。その変化は、医学・医療の内部からだけでなく、幅広い自然科学領域の研究成果や高度な工学的技術の進歩との関わりの中からもたらされるものである。本講義では、基礎医学領域の研究者がそれぞれの分野を概説しつつこれらの点に触れる。	
総21	動物実験の基礎	2	2-0	1~4	前・後	本講義では、生命科学分野における動物実験の意義と役割について、重要な研究成果、研究手法および実験技術を紹介しつつ概説する。また、大学における動物を用いた実習や研究に参加する予定の学生に知っておいてほしい、動物に対する倫理的配慮、動物の適正な管理方法、環境保全と安全管理、および関連法令についての講義を行う。主な受講対象者は医学部医学科の学生であるが、他の学部学科に属する学生の受講も歓迎する。本講義は、前期、後期の2回、開講される。	医学科の学生は1年次に前期講義を、医学科学士編入生は2年次の後期講義を履修すること。
総22	生命科学入門	2	2-0	1~4	前	近年、生命科学分野の研究の発展は著しく、その成果は、ヒトを含む生物の全遺伝情報の解読、遺伝子組換え生物の産業利用、再生医療技術の臨床応用、など、私たちの身近な話題として取り上げられている。本講義は、大学生が常識として知っていなければならない生命現象の基本的知識の習得とそれらの背景や応用的展開などについて学ぶことを目的とする。分子、細胞、臓器組織、個体の各レベルの知識に加え、健康の維持、生態系のありかた、などについて、分子生命科学研究施設の教員が概説するとともに、その社会的意義について考察する。	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【総合領域：総合科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
総28	科学と擬似科学	2	2-0	1~4	後	明らかに科学的とは言えないような有名な擬似科学的理論をいくつか取り上げて、それらがなぜ科学理論と認められないのか、それらをどのような観点から評価すべきなのか等々を科学哲学の考え方を参照しながら検討する。	
総33	人口と食糧	2	2-0	1~4	後	21世紀は急激な人口増加で、食糧難が一層深刻になってくると思われる。本講義では、地球規模での食糧生産の現状と今後の展望について、生産、加工、流通等の面から講義する。	
総36	囲碁の世界	2		1~4	前	囲碁のルール、マナー、基礎的な技術について学ぶと同時に、受講者同士の対局を通じて、判断力、分析力、洞察力、集中力を養う。指導に際しては日本棋院の全面的な協力を得る。初心者を対象とするため、受講対象は囲碁の未経験者に限定する。	集中講義
総38	災害と安全	2	2-0	1~4	後	台風、地震、大雨等の災害が発生するメカニズム及び社会基盤と生活に対する影響と対策さらには安全についての基本的な考え方について概説する。	
総47	総合環境学概論	2	2-0	2~4	前	環境問題について、人文、社会、自然の各分野から学術的、総合的なアプローチを行う。	
総49	生活習慣病予防および健康増進	2	0-2	1~4	前	本カリキュラムは、生活習慣病の予防の重要性について啓発を行い、生活習慣の修正法を体得することを目的とする。方略として、生活習慣病、運動療法、血圧測定法に関する演習を行う。運動及び血圧測定演習の前後で受講者の健康指標の変化を分析する。	
総50	大学で何を学ぶか	2	2-0	1~4	後	学生諸君が将来における自分の役割を見つけ、大学で学んだことを社会で活かすとはどんなことか。そのためにはどうすればいいのかなどを考える教材を提供する。	
総52	海外文化研修A (英語圏)	2		2~4	前 (集中)	海外の交流協定校などでの集中語学訓練や社会文化に関するセミナーへの参加、フィールドトリップや現地学生との交流などを通して、コミュニケーション能力の向上と異文化理解の深化を図る。	参加者の学部・専攻は問わない。「大学英語」と「英語講読演習中級」を履修済であること。その他、「英語講読演習上級」「英会話演習中級」「英作文演習中級」「英語プレゼンテーション演習中級」「TOEFL演習」「アメリカの文化と社会」(以上共通教育等科目)の受講を勧める。
総53	海外文化研修B (中国語圏)	2		2~4	前 (集中)	海外の交流協定校などでの集中語学訓練や社会文化に関するセミナーへの参加、フィールドトリップや現地学生との交流などを通して、コミュニケーション能力の向上と異文化理解の深化を図る。	参加者の学部・専攻は問わない。中国語関連科目を4単位以上履修済みの者。

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【総合領域：総合科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
総54	海外文化研修C (スペイン語圏)	4		2～4	前 (集中)	海外の交流協定校などでの集中語学訓練や社会文化に関するセミナーへの参加、フィールドトリップや現地学生との交流などを通して、コミュニケーション能力の向上と異文化理解の深化を図る。	スペイン語関連科目4単位以上履修済みか履修中であること。
総55	海外文化研修D (フランス語圏)	4		2～4	前 (集中)	海外の交流協定校などでの集中語学訓練や社会文化に関するセミナーへの参加、フィールドトリップや現地学生との交流などを通して、コミュニケーション能力の向上と異文化理解の深化を図る。	フランス語関連科目を4単位以上履修済みか履修中であること。
総56	海外文化研修E (ドイツ語圏)	4		2～4	前 (集中)	海外の交流協定校などでの集中語学訓練や社会文化に関するセミナーへの参加、フィールドトリップや現地学生との交流などを通して、コミュニケーション能力の向上と異文化理解の深化を図る。	ドイツ語関連科目4単位以上履修済みか履修中であること。
総57	環境インターンシップI	2	2-0	1～4	前	エコロジカル・キャンパス学生委員会のメンバーとして大学の環境マネジメントシステムの構築に積極的に参画し、学生にとって一番身近なキャンパス内で環境活動を企画・運営する実践的な授業である。	2016年度～2019年度入学の総合環境学副専攻学生の必須科目「総46 環境インターンシップ」の読み替え科目とする。
総58	環境インターンシップII	2	2-0	1～4	後	「環境インターンシップI」で身につけた知識や実践の経験を活かし、より多角的な視点且つ指導的な立場で委員会の活動に取り組むことが期待される。	「総57 環境インターンシップI」を履修済みであること
総62	環境と文学	2	2-0	1～4	後	文学にみられる人間と自然、人間と環境をめぐる関係性について、アメリカ文学、日本文学、西洋史の観点から考察する。	
総65	異文化コミュニケーション入門	2	2-0	1～4	後	異文化間コミュニケーションの基礎理論を踏まえ、文化的背景を異にする言語が接触した時に起こる種々の言語現象や非言語的行動(表現・身振り・対話者間の距離等)及び価値観・発想・思考形式の違いによって生じる文化摩擦現象の考察を通して、自国及び諸外国の言語文化や社会に対する理解を深める。	
総67	グローバル実践演習I	2	0-4	1～4	1Q	日本人と留学生が特定の課題に協働して取り組むことで、汎用スキルに「専門性」を加えたURGCCの掲げる7つの目標すべての能力を涵養する。特にグローバル実践演習Iでは学生個人の専門性をプレゼンテーション、ディスカッションすることによって、自分が専門として取り組んでいることを批判的に考察し、そのグローバルな場面における活用の仕方を積極的に再構築していくことを目標とする。	日本人と留学生の協働学修科目。 クォーター科目

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【総合領域：総合科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
総68	グローバル実践演習Ⅱ	2	0-4	1~4	2Q	日本人と留学生が特定の課題に協働して取り組むことで、汎用スキルに「専門性」を加えたURGCCの掲げる7つの目標すべての能力を涵養する。特にグローバル実践演習ⅡではPBL形式をとり、異文化間の考え方の相違を最適な解へと結びつけていく活動を通してグローバルな場面における主体的で実践的な問題解決力を習得することを目的とする。	日本人と留学生の協働学習科目。 クォーター科目
総76	倫理総合討論	2	2-0	3~5	前~後	与えられた15のテーマについて医学的のみならず社会・倫理的、法・経済的見地から討論を行う	教員は、調査・学習や討論のすすめ方を指導する。前学期から後学期にかけての通年科目。
総77	地震と防災	2	2-0	3~6	前又は後	地震は自然災害のなかでも、人為被害も含めて被害規模が最も大きく、社会生活を大きな混乱に招く。しかも、地震予知もまだ不可能であり、特に世界の地震の20.7%が集中する日本国にあっては、日本列島それ自身が自然の震動台といっても過言ではない。そのような自然環境のなかで、人間が生活を営む建物の地震被害を軽減化する最新の技術を中心に、耐震工学と防災工学の立場から概論的に講義する。	
総79	総合環境論	2	2-0	3~6	後	環境問題は、言うまでもなく現代世界的に大きな問題であり、様々な分野から真剣にとりくまなければならない。本講義は、それぞれ専門の学問領域を研究している後年次の学生に、それぞれの学問領域の立場から環境問題に対してアプローチしてもらい、発表し、受講者全員で議論するものである。	
総83	適応の心理	2	2-0	1~4	前・後	琉大の理念である「自由と平等、平和と寛容」との関連の中で、青年期の適応の問題をとりあげる。学生同志の自由な討論の中で、適応的に、よりよく生きていくための方策について考えていく。	
総91	総合特別講義Ⅰ	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
総92	総合特別講義Ⅱ	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
総93	総合特別講義Ⅲ	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
総94	総合特別講義Ⅳ	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
総95	総合特別講義Ⅴ	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
総96	総合特別講義Ⅵ	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
総97	総合特別講義Ⅶ	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
総98	総合特別講義Ⅷ	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
総99	総合特別講義Ⅸ	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【総合領域：総合科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
総100	グローバル実践演習Ⅲ	2	4-0	1~4	3Q	異なる背景を持つ日本人学生と留学生が協働することにより共通の目標にいたるプロセスを実践し、その意識とスキルの定着を図る。グローバル実践演習Ⅲにおける特定の課題は、それぞれの受講生が専門とする分野のことであり、それを文化の異なる他者と共有する中で批判的に考察し、グローバルな場面における活用の仕方を積極的に再構築していくこととする。	日本人と留学生の協働学修科目。 クォーター科目
総101	グローバル実践演習Ⅳ	2	4-0	1~4	4Q	異なる背景を持つ日本人学生と留学生が協働することにより共通の目標にいたるプロセスを実践し、その意識とスキルの定着を図る。グローバル実践演習Ⅳにおける課題は、グローバル実践演習Ⅲを発展させたそれぞれの受講生が専門とする多様な分野の視点を統合させ、それを文化の異なる他者と共有する中で批判的に考察し、グローバルな場面における自己の専門性の活用の仕方を積極的に再構築していくこととする。	日本人と留学生の協働学修科目。 クォーター科目
総102	Urban Disaster Prevention	2	4-0	1~4	前	日本国内及び世界各国におけるいくつかの自然災害を取り上げ、その発生のメカニズム、インフラ被害を中心に基礎知識を学んでいく。さらに災害前の準備、災害後の一般市民の避難所運営のあり方についてもグループワークを含めて進めていく。まとめとして、各自、本講義で学んだことを活かし、自然災害についてのテーマを英語によるグループプレゼンテーションで発表する。	クォーター科目
総103	日本語学概説Ⅰ	2	2-0	2	前	日本語そのものへの理解を深めるため、複数の教員がそれぞれ複数回の授業を担当し、さまざまな視点で日本語の特徴を講義する。それを通して、外国語としての日本語教育に求められる日本語学の基礎を学ぶ。	日本語教育副専攻登録者(登録予定者)を優先する。
総104	日本語学概説Ⅱ	2	2-0	2	後	前期の日本語学概説Ⅰを発展させ、さらに日本語そのものへの理解を深めるため、複数の教員がそれぞれ複数回の授業を担当し、さまざまな視点で日本語の特徴を講義する。それを通して、外国語としての日本語教育に求められる日本語学の基礎を学ぶ。	日本語教育副専攻登録者(登録予定者)を優先する。
総105	日本語教育学概説Ⅰ	2	2-0	2	前	日本語学習者の概略を知ることから始め、①日本語(教育)と国語(教育)の違い、②日本語を学習者の立場から見直し、学習者にとってどのようなところが問題となるのかについて考える。	日本語教育副専攻登録者(登録予定者)を優先する。
総106	日本語教育学概説Ⅱ	2	2-0	2	後	①日本語教育の実際と課題を対象者別に検討し、②海外の日本語教育について調べる他、③日本語教育の中で「文化」をどのように扱ったらいいのか考える。	日本語教育副専攻登録者(登録予定者)を優先する。

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【総合領域：総合科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
総107	日本語教育各論Ⅰ	2	2-0	3~4	前	実際の会話データ（動画および書き起こしスクリプト）を観察・分析することを通して、日本語教育における会話教育について考える。	日本語教育副専攻登録者（登録予定者）を優先する。
総108	日本語教育各論Ⅱ	2	2-0	3~4	後	新聞記事など書き言葉のテキストを観察・分析することを通して、日本語教育における読解教育・批判的リテラシー教育について考える。	日本語教育副専攻登録者（登録予定者）を優先する。
総109	日本語教材研究Ⅰ	2	2-0	2	前	現代日本語文法を主体的に考える能力を高めつつ、自分のための文法参考書を作ることを最終目標とする。	日本語教育副専攻登録者（登録予定者）を優先する。
総110	日本語教材研究Ⅱ	2	2-0	2	後	現代日本語文法を主体的に考える能力を高めつつ、自分のための文法参考書を作ることを最終目標とする。	日本語教育副専攻登録者（登録予定者）を優先する。
総111	日本語教授法Ⅰ	2	2-0	3~4	前	日本語教師として教壇に立つために学ばなければならない基本的な項目を取り上げる。講義と討論によって日本語教授法の基礎を学ぶ。学期の後半には模擬授業を行う。	日本語教育副専攻登録者（登録予定者）を優先する。
総112	日本語教授法Ⅱ	2	2-0	3~4	後	日本語教師として教壇に立つために学ばなければならない基本的な初級文法、中級教材分析、聴解・読解の生教材作成法を学ぶ。学期の後半には模擬授業を行う。	日本語教育副専攻登録者（登録予定者）を優先する。
総113	日本語教育実習	2	0-2	4	前又は後	授業実習だけでなく、1つのコース（学習者募集からコース評価まで）を受講生で分担しながら運営し、教育現場で求められる基本的な能力を培う。	日本語教育副専攻登録者であること。
総114	海外日本語教育実習Ⅰ	2	0-2	4	前又は後	実施の可否については年度ごとの状況によって異なる。	日本語教育副専攻登録者であること。
総115	日本語教育演習Ⅰ	2	2-0	3	前	日本語教育およびその関連領域についての文献を講読し、発表および議論を行い、理解を深める。	日本語教育副専攻登録者（登録予定者）を優先する。
総116	日本語教育演習Ⅱ	2	2-0	3	後	日本語教育およびその関連領域についての文献を講読し、発表および議論を行い、研究テーマを決定する。	日本語教育副専攻登録者（登録予定者）を優先する。
総117	日本語教育演習Ⅲ	2	2-0	4	前	研究計画を立て、分析方法を学び、調査やデータの収集を行う。	日本語教育副専攻登録者（登録予定者）を優先する。
総118	日本語教育演習Ⅳ	2	2-0	4	後	調査結果やデータの分析・考察を行い、論文を執筆する。	日本語教育副専攻登録者（登録予定者）を優先する。
総119	国際共修で学ぶ日本文化Ⅰ	2	1-1	2	後	日本の文化に関する講義を基に日本文化の様式的な側面について与えられたテーマについての調査を行い、多様な文化背景を持つ受講生間で協働学習を行う。	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【総合領域：総合科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
総120	国際共修で学ぶ日本文化II	2	1-1	2	前	日本文化の精神文化的側面について、様々な文化背景を持つ受講生同士がディスカッションや発表を通して互いの問題意識を共有する。調査・体験の振り返りを通して課題を発見し、グループ・プロジェクトなどの協働学習などを通して文化への理解を深める。	
総121	国際共修で学ぶ日本史I	2	2-0	2	後	縄文時代から室町時代までの日本の歴史に関する講義を基に与えられたテーマについての調査を行い、多様な文化背景を持つ受講生間で協働学習を行う。知識を得るだけでなく、歴史的プロセスへの理解を深め、深い異文化・自文化理解を目指す。	
総122	国際共修で学ぶ日本史II	2	2-0	2	前	安土桃山時代から現代までの日本の歴史を、様々な文化背景を持つ受講生同士がディスカッションや発表を通して互いの問題意識を共有する。調査・体験の振り返りを通して課題を発見し、グループ・プロジェクトなどの協働学習などを通して歴史への理解を深める。	
総123	国際共修で学ぶ沖縄の文化I	2	1-1	1~4	後	沖縄・琉球の文化に関する講義を基に、与えられたテーマについての調査を行い、多様な文化背景を持つ受講生間で協働学習を行う。知識を得るだけでなく、文化形成プロセスへの理解を深め、深い異文化・自文化理解を目指す。	日本語教育副専攻登録者(登録予定者)を優先する。
総124	国際共修で学ぶ沖縄の文化II	2	1-1	1~4	前	沖縄・琉球の文化に関する講義を基に、与えられたテーマについての調査を行い、多様な文化背景を持つ受講生間で協働学習を行う。知識を得るだけでなく、文化形成プロセスへの理解を深め、深い異文化・自文化理解を目指す。	日本語教育副専攻登録者(登録予定者)を優先する。
総125	国際共修で学ぶ沖縄の歴史I	2	1-1	1~4	後	琉球・沖縄の歴史に関する講義を基に与えられたテーマについての調査を行い、多様な文化背景を持つ受講生間で協働学習を行う。知識を得るだけでなく、歴史的プロセスへの理解を深め、深い異文化・自文化理解を目指す。	日本語教育副専攻登録者(登録予定者)を優先する。
総126	国際共修で学ぶ沖縄の歴史II	2	1-1	1~4	前	琉球・沖縄の歴史に関する講義を基に与えられたテーマについての調査を行い、多様な文化背景を持つ受講生間で協働学習を行う。知識を得るだけでなく、歴史的プロセスへの理解を深め、深い異文化・自文化理解を目指す。	日本語教育副専攻登録者(登録予定者)を優先する。
総127	グローバルSDGs概論	1	0-2	1~4	前	持続可能な開発目標SDGsに積極的に取り組む人材育成のための学修プログラムであるグローバル津梁の基礎的段階(Level 1)として、SDGsの目的、意義および17のゴール・169のターゲットに対する知識を習得し、理解を図る。	クォーター科目

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【総合領域：総合科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
総128	言語教育実習	2	1-1	1~4	前・後	短期留学プログラムRISE（琉球大学と国際交流協定を締結している海外の大学からの留学生を受け入れるもの）の中にある日本語教員養成コースの学生とともに、さまざまな言語を教えあったり学びあったりする。そしてそれとおして自分の中の複言語／複文化能力を伸ばし、多様性に寛容で他者とともに生きようとする「市民性」の形成を目指す。	
総129	グローバル・イノベーション演習I	1	0-2	1~4	1Q	国連のSDGsによる持続的社会的実現に資する企画・提案を、社会に還元するための創造的かつ具体的な実践的企画力を習得させる。グローバル・イノベーション演習Iにおいては、知識の習得と理解のため、企画・起業に関する専門家のレクチャーおよび基礎的な演習を行う。	クォーター科目
総130	グローバル・イノベーション演習II	1	0-2	1~4	2Q	国連のSDGsによる持続的社会的実現に資する企画・提案を、社会に還元するための創造的かつ具体的な実践的企画力を習得させる。グローバル・イノベーション演習IIにおいては、応用と分析のため、企画・起業についての分析の枠組みの習得、実践例の研究・分析・評価、研究を踏まえた実践の演習を行う。	クォーター科目
総131	グローバル・イノベーション演習III	1	0-2	1~4	3Q	国連のSDGsによる持続的社会的実現に資する企画・提案を、社会に還元するための創造的かつ具体的な実践的企画力を習得させる。グローバル・イノベーション演習IIIにおいては、企画・提案の独自性、具体性の確立に向けて、起業家等の専門家によるコーチングを踏まえた具体策構築の演習を行う。	クォーター科目
総132	グローバル・イノベーション演習IV	1	0-2	1~4	4Q	国連のSDGsによる持続的社会的実現に資する企画・提案を、社会に還元するための創造的かつ具体的な実践的企画力を習得させる。グローバル・イノベーション演習IVにおいては、クリティカル・シンキングの段階として、独自の企画。提案に対し類似する取組との比較検証、専門家による模擬審査を実施する。	クォーター科目
総133	ゲノム情報の生命科学とデータサイエンス入門	2	2-0	1~4	後	コロナウイルス感染時の重症化やがん、生活習慣病へのかかりやすさは、個人のヒトゲノムに記された情報により担われている。本講義では、高校レベルの生物学の基礎からゲノム情報の発現について講義し、データサイエンス的アプローチで解析する手法を学ぶ。	
総134	昆虫の科学	2		1~4	後	昆虫類は地上で最も繁栄している動物群であり、生物多様性の根幹を担う重要な構成要素です。昆虫類がどのような形態的・生態的な特徴をもち、どのような暮らしをしているかを最新の知見をふまえて概説します。さらに、昆虫類が環境で果たす役割や我々の生活との関わりを紹介します。	集中講義

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【総合領域：琉大特色・地域創生科目】

科目 番号	授業科目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	講 義 内 容	備 考
琉01	平和論	2	2-0	1~4	前又は後	国内で稀有な戦争・戦後体験を持つ沖縄の現代史と現状を踏まえながら、アジア・世界の平和について考える。	
琉02	核の科学	2	2-0	1~4	前	核の基礎的な原理、その平和利用軍事利用、又人間及び環境に及ぼす影響などを自然科学的、医学的、社会科学的立場から概説する。	
琉03	女性と社会	2	2-0	1~4	前又は後	フェミニズムの理論と動向を紹介しつつ、新しい女性像を探る。更に、沖縄の女性をも視野に入れる。	
琉05	沖縄の基地と戦跡 I	2	2-0	1~4	前又は後	沖縄の基地や沖縄戦の具体像をとおして平和を考える。	
琉06	沖縄の基地と戦跡 II	2		1~4	前又は後	沖縄の基地や沖縄戦案内の内容・教材・方法を教員と学生同士の共同で作りあげる。	沖縄の基地と戦跡 I を履修していること。 集中講義
琉14	琉球の文学	2	2-0	1~4	前・後	琉球（沖縄）に伝承されてきた歌謡や劇を取りあげ、琉球のことばによる表現について概説する。	
琉18	地域の科学	2	2-0	1~4	前・後	地域と人間生活の関わり合いにおける社会科学的課題について、多角的な講義を行う。	
琉22	琉球の自然	2	2-0	1~4	前	琉球の島じまをとりまく大気のこと、島の地形・地質・陸水のこと、島に生息する植物・動物のことなどを中心に、琉球列島の自然を紹介し、その特性について考察する。	
琉23	琉球の自然保護	2	2-0	1~4	前又は後	沖縄の自然保護について多角的に学ぶ。沖縄の自然破壊の現状を知り、開発との関係も考える。	
琉24	沖縄のサンゴ礁	2	2-0	1~4	後	沖縄のサンゴ礁について、幅広く物理、化学、生物、地学、海洋学の諸分野にまたがり、学際的見地から講義を行う。この海域のサンゴ礁についての総合的な理解を深めることによって、サンゴ礁域における生命の多様さ、生命の重さと保全の大切さ、自然環境の維持の必要性の重要性を考える。	
琉25	琉球弧の自然誌	2	2-0	1~4	前・後	地学の視点でとらえた琉球弧の特徴や特色をわかりやすく講義する。複数の地球環境系教員が担当し、琉球弧に関する具体的なテーマ（琉球弧の位置づけ、琉球弧周辺で起きている地学的現象、地形と地質、成立ち（地史）、海底地質、琉球弧を取り巻く海洋と気象など）について概説する。	
琉26	琉球の地理	2	2-0	1~4	前	琉球諸島は、亜熱帯の環境、サンゴ礁の海、といった特色ある自然事象に加え、琉球文化圏といわれる独特の文化圏を形成してきており、島嶼経済、サトウキビ農業、といった人文事象についても特色ある地域である。この亜熱帯島嶼環境下にある琉球の非常に特色のある地理的事象について概説する。	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【総合領域：琉大特色・地域創生科目】

科目 番号	授業科目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	講 義 内 容	備 考
琉33	現代の国際関係	2	2-0	1~4	前・後	現代の国際社会を理解するための基礎的概念を紹介し、現代の諸課題をその歴史的背景をも含めて紹介・検討する。	
琉41-2	琉球アジア研究入門	2	2-0	1~4	前又は後	琉球・沖縄の歴史・言語・文学、日本の文学・歴史など日本を含む琉球、アジアの個々の地域について、あるいは、中国と琉球・沖縄、日本と中国などの交流の歴史にふれ、それぞれの地域の文学や言語を比較・対照しながら、いま何をどのように研究をすすめているのか、なぜ研究をする必要があるのか、解決しなければならない課題はなにか、などなど具体例をあげて講義する。	
琉42	移民論	2	2-0	1~4	前又は後	戦前・戦後を通じて国内でも有数の移民県であることを踏まえて沖縄の移民の歴史と現在を考察する。	
琉46	沖縄の政治と社会	2	2-0	1~4	前・後	近現代の沖縄の政治と社会について、日本の国内政治や国際的環境との関連において考察する。	
琉48	うちなーぐちあしび	2	2-0	1~4	前又は後	沖縄語(うちなーぐち)を話すだけでなく、読んだり、聞いたりすることによって、沖縄語に親しむ機会を提供する。沖縄語普及協議会発行の『はじめらなうちなーぐち』を使って、まず沖縄語の基本文型の習熟を図る。さらに『沖縄ぬ暮らしとう昔話』などを使って、沖縄語に親しむ。	
琉49	亜熱帯-西表の自然	2		1~4	前	亜熱帯西表島には多くの貴重な動植物が様々な生活を営んでいる。これらの生き物に体験学習の講義という形で接してもらおう。亜熱帯林、マングローブ林等を歩き、生物観察とその調査法等を学ぶ。ほか、サンゴ礁でのシュノーケリングなども行い、西表島の様々な自然環境を観察する。	集中講義
琉50	沖縄の学力と教育	2	2-0	1~4	前又は後	沖縄は残念ながら全国でもっとも学力の低い地域として知られている。そのうえ、近年の教育改革(ゆとり教育、学習内容の3割減、完全学校週五日制等)により全国的な学力低下が指摘され、そうした意味では、沖縄は二重の学力問題を抱えているといえる。本講義では、そうした沖縄の学力問題を近年の教育改革の動きを踏まえながら、社会学的、心理学的に明らかにしていく。	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【総合領域：琉大特色・地域創生科目】

科目 番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	講 義 内 容	備 考
琉51	琉球語入門Ⅰ	2	2-0	1~4	前	奄美諸島から沖縄諸島、宮古諸島、八重山諸島にいたる琉球列島の諸方言は、マイノリティの言語であるが、その発音や文法の基礎とその上に多様な表現を身につけつつ琉球語の特質を学ぶ。	
琉52	琉球語入門Ⅱ	2	2-0	1~4	後	奄美諸島から沖縄諸島、宮古諸島、八重山諸島にいたる琉球列島の諸方言は、マイノリティの言語であるが、その発音や文法の基礎とその上に多様な表現を身につけつつ琉球列島の各島々の方言の特質を学ぶ。	
琉53	沖縄の染めと織り	2	2-0	1~4	前	沖縄の人々は、独特の自然・気候風土や地理的特性、歴史などを背景に豊かな工芸文化を育んできた。そのなかでも「染織」では、島や地域ごとに様々な素材・技法によって多様で魅力的な多くの染織物が生みだされてきた。 その歴史をひもときながら、沖縄の生活のなかで作り出されてきた染織物について実物や写真で紹介するとともに、現在の沖縄の伝統染織・手仕事の抱える課題についても考察していく。	
琉54	沖縄の歴史入門	2	2-0	1~4	前又は後	琉球王国が日本という近代国家へ併呑される過程（「琉球」から「沖縄」への変容）から、沖縄戦を経て、米軍統治期の「戦後」、日本への「復帰」、現在の「沖縄問題」に至るまでの沖縄近現代史に関する基礎的な歴史事象を概説する。また、沖縄近現代史をめぐる歴史学上の論争について、最新の研究動向を紹介しつつ適宜取り上げることによって、歴史的な観点から現代的な課題へのアプローチについても講じる。	
琉55	琉球学入門	2	2-0	1~4	後	琉球（ここでは、奄美群島と沖縄県全域とする）の歴史、文化・言語、自然環境等における地域特性とそこから派生する様々な事象について概説し、琉球地域の多様性について理解させる。	
琉56	琉球の自然と人	2	2-0	1~4	前・後	多様で個性的な島々からなる奄美・沖縄という地域を事例にして、自然と人間のローカルなかかわりについて考える。特に「亜熱帯」「サンゴ礁」「島嶼」に焦点を当て、主として文化生態地理学・景観地理学の観点から検討する。自然と向き合って生活を営んできた奄美・沖縄の人々の生活文化について、関連写真や図を多く用いた視覚的な授業を目指す。	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【総合領域：琉大特色・地域創生科目】

科目 番号	授業科目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	講 義 内 容	備 考
琉58	Community environment and planning (コミュニティ環境計画論)	2	4-0	1~4	後	地域の生活環境の実態とその改善のための計画のあり方を、沖縄における具体的な実例を通じて理解する。伝統的なコミュニティから近代的な居住地までの実態と改善のための計画のあり方を学ぶ。講義は大学院留学生のクラスとの合同討論を含めて英語で行われる。	
琉71	現代沖縄地域論	2	2-0	1~4	前又は後	「沖縄」という地域が有する諸特性や地域課題の多様性について学ぶ。オムニバス式の講義と受講者間のディスカッション等を通じて地域社会に関する理解を深める。	
琉72	地域課題フィールドワーク演習	2		1~3	後	地域が抱える課題について、事前学修やフィールドワーク等を通してその実態を知り、解決・改善策について考える。課題ごとにチームを編成し取り組み、最終的にプレゼン報告会において取組の成果を発表する。	集中講義
琉73	現代沖縄の地域振興	2	2-0	1~4	前	沖縄県においていかにして地域振興を図ることができるかをテーマに、地方創生や雇用状況、自治体の政策、起業、NPO等の側面から地域振興に関する基本的事項を学び、ケーススタディを通じて具体的方策や課題意識について学ぶ。	
琉74	地域システム計画論	2	2-0	1~4	前	地域とは何か？計画とは何か？を考え、地域における自然環境、社会環境をシステムとして理解し、如何にして計画を作るのかについて講義する。特に、計画システムにおけるシステムズ・アナリシスの考え方およびこれと各種数理モデル等の関係について考究する。	
琉75	地域環境と生活空間	2	2-0	1~4	前又は後	地域の環境を生活空間として理解し、生活空間の歴史と展望を考える。沖縄の生活空間史、コミュニティの実態、子どもの生活空間、身近な自然環境との関わり等について、現地学習による実感を重視した授業を実施する。	
琉76	地域プロジェクト実践	2		1~4	前又は後	地域の現況や地域が有する資源・課題等の学習による理解をベースに、地域において実際的なプロジェクト型学習を実施し、地域社会の維持・発展に資する実践的な知識やスキルを身につける。	集中講義
琉77	地域フィールドワーク入門	2		1~4	前又は後	地域における問題を発見、分析、解決していくための科学的アプローチとしてフィールドワークを学ぶ。授業では、講義を通じてフィールドワークに関する基本的な知識を理解するとともに、実際のフィールドにおいて研究を実践的に展開する。	集中講義

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【総合領域：琉大特色・地域創生科目】

科目番号	授業科目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	講 義 内 容	備 考
琉78	島嶼地域科学入門	2	2-0	1~4	後	沖縄や沖縄と共通の課題をもつ島嶼地域社会の現状や問題について、人文・社会科学系を中心とした様々な分野の教員による講義を通して多角的に学び、自律的・持続的な島嶼地域社会の発展を実現する方策について考える。	
琉91	琉大特色・地域創生特別講義Ⅰ	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
琉92	琉大特色・地域創生特別講義Ⅱ	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
琉93	琉大特色・地域創生特別講義Ⅲ	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
琉94	琉大特色・地域創生特別講義Ⅳ	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
琉95	琉大特色・地域創生特別講義Ⅴ	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
琉96	琉大特色・地域創生特別講義Ⅵ	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
琉97	琉大特色・地域創生特別講義Ⅶ	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
琉98	琉大特色・地域創生特別講義Ⅷ	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
琉99	琉大特色・地域創生特別講義Ⅸ	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
琉100	沖縄の航空事業と地域振興	2	2-0	1~4	前	日本トランスオーシャン航空の取組み事例を中心に沖縄における航空事業と地域振興について講義するとともに、沖縄県の空の玄関である那覇空港の視察を通し沖縄における航空事業の役割について理解を深める。	
琉101	ドローン&フィールドサイエンス	2		1~4	前	フィールド調査の際、ドローンを安全に飛ばすための基礎知識、法規、技能を3日間の集中講義で習得する。講義は座学10時間程度と実技講習、筆記及び実技試験の三つで構成される。開催場所は西表島で熱帯生物圏研究センター西表研究施設に連泊して受講する。	集中講義
琉102	グローバル実践演習Ⅰ	2	1-1	1~4	前・後	留学生と日本人学生の協働学習による国際交流と地域貢献を目的としたプロジェクトを企画・運営する。西原町の高校生や地域住民もプロジェクトに参加してもらうことにより、受講生が地域と留学生の間でグローバルリーダーとして活躍する場を設け、近い将来に向けた疑似体験による演習を行う。	
琉103	グローバル実践演習Ⅱ	2	1-1	1~4	前・後	留学生と日本人学生の協働学習による国際交流と地域貢献を目的としたプロジェクトを企画・運営する。西原町の高校生や地域住民もプロジェクトに参加してもらうことにより、受講生が地域と留学生の間でグローバルリーダーとして活躍する場を設け、近い将来に向けた疑似体験による演習を行う。グローバル実践演習Ⅰで得た経験をもとに、プロジェクトの各担当チーム（企画・広報・資金獲得など）のリーダーとなり、より主体的に中心的役割を果たす。	グローバル実践演習Ⅰを履修済みのこと

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【総合領域：琉大特色・地域創生科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
琉104	グローバル実践演習Ⅲ	2	1-1	1~4	前・後	留学生と日本人学生の協働学習による、国際交流と地域貢献を目的としたプロジェクトを企画・運営する。西原町の高校生や地域住民との連携を始めとする地域連携により、留学生、日本人がグローバルな視点をもって地域社会の課題解決に取り組む場を設け、リーダーシップを育成する演習を行う。グローバル実践演習Ⅲにおいてはプロジェクトにおける協働力を実践し、習得させる。	グローバル実践演習Ⅱを履修済みのこと
琉105	グローバル実践演習Ⅳ	2	1-1	1~4	前・後	留学生と日本人学生の協働学習による、国際交流と地域貢献を目的としたプロジェクトを企画・運営する。西原町の高校生や地域住民との連携を始めとする地域連携により、留学生、日本人がグローバルな視点をもって地域社会の課題解決に取り組む場を設け、リーダーシップを育成する演習を行う。グローバル実践演習Ⅳにおいてはプロジェクトに対するクリティカルシンキングを実践し、習得させる。	グローバル実践演習Ⅲを履修済みのこと
琉106	個と多様性	1	0-2	1~4	前・後	日本人学生と留学生が履修する国際共修科目。地域・国際性を修得する初段階において、言語や文化の異なる学習者同士がオートエスノグラフィーという研究方法を用いて、「自分の経験を振り返り、『私』がどのように、なぜ、何を感じたかということを探ることを通して、文化的・社会的文脈の理解を深める」（井本 2013:104）、異文化交流に対する意欲、柔軟性、感情の自己管理、忍耐力等を修得する。	日本語または英語で日常会話レベルのコミュニケーションがとれること (CEFR A2 相当以上) クォーター科目
琉107	グローバルリーダーシップ論Ⅰ	1	2-0	1~4	後	国際化・多様化が進む地域社会において、様々な階層と役割においてリーダーシップをとることができる人材に必要な知識やスキルを、講義とワークショップを通して習得する。沖縄をリードする企業や官公庁からも外部講師を招いて講義やワークショップを行い、沖縄の産業や経済の現状や課題について理解を深め、課題解決に向けての議論を行う。	日本語または英語で日常会話レベルのコミュニケーションがとれること (CEFR A2 相当以上) クォーター科目
琉108	グローバルリーダーシップ論Ⅱ	1	0-2	1~4	前	リーダーシップの歴史をたどりながら、現代のグローバル社会に必要とされるリーダーシップおよび組織マネジメントの理論的枠組みの理解を進め、そのスキルの実践の場としての地域社会の具体的な課題解決のワークショップを通じて、地域・国際性に則ったリーダーシップの習得を図る。	日本語または英語で日常会話レベルのコミュニケーション (CEFR A2相当) がとれること クォーター科目

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【総合領域：琉大特色・地域創生科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
琉109	グローバル実践研修	1	0-2	1~4	前・後	留学生と日本人学生がチームになり、地域の様々な団体において実地研修を行い、課題を発見し、その解決法を提案する。中間報告と最終報告のプレゼンテーションを行い、参加者全員でディスカッション、評価を行う。	日本語または英語で日常会話レベルのコミュニケーションがとれること (CEFR A2相当以上) クォーター科目
琉110	グローバル実践研修Ⅱ	1	0-2	1~4	第2Q	留学生と日本人学生がチームになり、地域の様々な団体において実地研修を行い、課題を発見し、その解決法を提案する。中間報告と最終報告のプレゼンテーションを行い、参加者全員でディスカッション、評価を行う。Ⅰとは研修を実施する団体が異なる。	日本語または英語で日常会話レベルのコミュニケーションがとれること (CEFR A2相当以上) クォーター科目
琉111	沖縄の航空事業と地域振興Ⅱ	2	0-2	1~4	後	「沖縄の航空事業と地域振興」についてグループワーク等による演習を通して学ぶ。授業では、日本トランスオーシャン航空の取組み事例を中心しつつ、航空管制や空港ビル等についても取り上げ、沖縄における航空事業の役割について理解を深める。	沖縄の航空事業と地域振興を履修済みのこと
琉112	世界自然遺産西表島	2		1~4	前	西表島で実施する7日間の実習。西表島の川、海、森を実地踏査し、世界遺産に認められた生態系の繋がりを観察する。一方で海外からの漂流物、観光収入に依存した社会形態、立場の違いによる住民意見の相違等の問題も認識した上で、今後継続的自然、文化を守りつつ生活の営みを継続、向上するにはどのようにしたら良いかを沖縄島嶼にまで展開して議論する。	集中講義
琉113	マングローブ生態系西表島	2		1~4	前	西表島で実施する5日間の実習。西表島のマングローブ生態系を実地踏査し、山河と珊瑚礁を繋ぐマングローブ生態系の機能を考察する。授業は三部構成。一部は亜熱帯林とマングローブの生態系の違いをカーボンストック機能中心に議論。二部は汽水域でマングローブ生態系が何故成立可能なのかを植物生理学的に考察。三部ではマングローブ生態系が存在する河口から珊瑚礁の間で成立する生態系の特徴を把握する。	集中講義
琉114	社会に活かす科学研究	2		1~4	前	琉球大学で産官学が共創して取り組んでいるプロジェクトを例に取り、参画する専門家がそれぞれの立場から「共創」から生まれる「社会実装」をオムニバス形式で紹介する。特に、この講義では「琉大ミーバイ」を例に取り実践的に概説する。	集中講義

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【総合領域：キャリア関係科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
C11	キャリア形成入門	2	2-0	1~3	前・後	<p>本講義では、社会的・職業的自立に向け「社会人基礎力※」、「人生観や職業観」、「ライフ・キャリアデザイン」及び「民間や公務員の就職就活の知識」を身に付けるとともに、自己理解を深め、主体的に進路を選択する能力・態度を育成することを目指している。</p> <p>※「社会人基礎力」とは、前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力</p>	
C15	キャリアデザインとジェンダー	2	2-0	1~4	後	<p>キャリア形成におけるジェンダーの問題やダイバーシティ推進に関する学生の自発的な学びを促すキャリア関係科目で、キャリアデザインに関するワークショップやグループディスカッションなどを組み合わせたアクティブラーニングにより学生の理解を深める。</p>	
C22	海外キャリア形成入門	2		1~4	前	<p>海外の厳しい環境でビジネスを展開している日本人起業家等をゲスト講師として招き、国内外の諸問題の理解（国際環境、産業構造の変化等）とポストコロナ時代の社会変革を予測し、これからの厳しい環境を生き抜くための「若者のキャリア戦略」を考える講義を実施する。</p>	集中講義
C23	海外職場体験	2		1~3	前又は後	<p>海外での職場体験や人的交流体験を通して、国際感覚を身につけることにより海外への就職機会の拡大や社会貢献の意識向上に繋げる。帰国後は報告会等を実施し、他学生の意識向上にも繋げる。</p> <p>受講希望者は指定の様式のエントリーシートを提出し、キャリア教育センターが実施する面接試問と併せた総合評価により、受講者を決定する。事前研修3回（各4時間）、約8日間の在外研修、事後研修2回（各4時間）、成果発表より成る。</p>	集中講義
C27	実践キャリア形成	2	2-0	2~4	前・後	<p>「キャリア形成入門」の応用となる授業。自身の卒業後のキャリア形成を具体化するための多様な視点を提供するとともに、残された大学生活において有意義な時間を過ごすための行動や思考を身につける。</p>	キャリア形成入門を履修済みであること。

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【総合領域：キャリア関係科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
C31	地域企業（自治体）お題解決プログラム	2	2-0	1~4	前・後	<p>県内市町村(自治体)が抱える地域課題について、座学で学び、フィールドワークで体験・調査、課題解決のための実現可能性が高い解決策をグループで検討する。これらを発表会で自治体に企画提案（プレゼンテーション）するPBL型（問題・課題解決型）授業。</p> <p>これからの地域社会で求められる課題解決に向けた地域公共人材*の職能資格である「初級地域公共政策士」の対象科目。</p> <p>*協働型社会において、地域社会の共通課題の解決のために、職業やセクター、組織という分断の壁を乗り越えて、パートナーシップを結びながら、協働できる担い手。</p>	
C41	日本企業インターンシップI	2		1~4	前又は後	<p>日本企業に就職する意欲があり、かつ能力の高い外国人留学生を対象に、ビジネス日本語研修、ビジネス専門教育、インターンシップを通じ、日本の産業界に対する理解を促進し、活躍できる人材を育成する。ビジネス日本語会話やビジネス日本語の読み書きの基本を学ぶとともに、日本企業の文化について理解を深め、ビジネスにおける慣習やマナーなどを身につけ、実際に企業でインターンシップ研修をするための準備をする。</p>	集中講義 外国人留学生対象
C42	日本企業インターンシップII	2		1~4	前又は後	<p>沖縄県内の企業で実際にインターンシップ生として働くことで、実践的なビジネス能力を養成し、参加学生自身のキャリアビジョンを構築させ、エンプロイアビリティを高めさせる。企業での実務研修の経験を通して、日本の産業界に対する理解を促進し、将来、高度グローバル人材となって、日本の産業界でグローバルに活躍できる人材を育成する。</p>	集中講義 外国人留学生対象
C91	キャリア関係特別講義I	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
C92	キャリア関係特別講義II	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
C93	キャリア関係特別講義III	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
C94	キャリア関係特別講義IV	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
C95	キャリア関係特別講義V	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
C96	キャリア関係特別講義VI	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
C97	キャリア関係特別講義VII	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
C98	キャリア関係特別講義VIII	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
C99	キャリア関係特別講義IX	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【基幹領域：情報関係科目】

科目 番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	講 義 内 容	備 考
情01	情報科学演習	2	0-2	1~4	前・後	「情報処理技術を研究・教育の道具として使いこなせない大学は、もはや存在できない。」との危機意識をもって、コンピュータリテラシー（コンピュータ活用能力）の向上を目的とした演習を行う。	
情11	日本語表現法入門	2	2-0	1~4	前・後	基礎的な日本語の音声、文法、語彙表記、文体等を学習するとともに、レポートの作成や発表等を演習する。講義と演習を併用することによって、日本語の表現力を豊かにすることをねらいとする。	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【基幹領域：外国語科目】

科目 番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	講 義 内 容	備 考
外101	大学英語	4	2-2	1~4	前	国際社会に適応できる英語能力の育成を目的とし、様々な分野内容に関して各種英語教材の実践的聴解・読解を行なうとともに、基礎的かつ実践的な訓練を行なう。	
外102	英語講読演習 中級	2	1-1	1~4	前・後	人文系、社会系、自然科学系のテーマを扱った教材を使用し、パラグラフ・リーディングに重点を置いて、英文の主旨・大意を適確に把握する訓練をし、基礎的な読解力の養成を行う。	大学英語を履修済みであること。
外103	英語講読演習 上級	2	1-1	1~4	前・後	英語講読演習 中級より程度の高い英文教材の講読を通して、専門外書講読への応用・発展の手がかりを与える。	大学英語を履修済みであること。英語講読演習 中級を履修済みであることが望ましい。
外104	英会話演習 中級	2	1-1	1~4	前・後	国際社会に適応できるコミュニケーション能力を育成するために、英会話の基礎的な知識と理解を基盤として、それをさらに実践的に応用できる能力の養成を行う。	大学英語を履修済みであること。
外105	英会話演習 上級	2	1-1	1~4	前・後	国際社会に適応できるコミュニケーション能力を育成するために、ディスカッションやディベートなど英会話演習 中級より程度の高く洗練された英語運用能力の養成を行う。	大学英語を履修済みであること。英会話演習 中級を履修済みであることが望ましい。
外106	英作文演習 中級	2	1-1	1~4	前	日常的・社会的な話題について、自分の考えを1~2パラグラフにまとめ、文法的に正しい英語で表現する力を養う。	大学英語を履修済みであること。
外107	英作文演習 上級	2	1-1	1~4	前・後	日常的・社会的な話題について、自分の考えをエッセイ・レポートにまとめ、国際的に適応できる英作文能力の養成を行なう。	大学英語を履修済みであること。英作文演習 中級を履修済みであることが望ましい。
外108	英語プレゼンテーション演習 中級	2	1-1	1~4	前・後	音声・文字による英語メディアや、専門分野の英文教材の理解を元に、英語でのプレゼンテーション能力を養う。	大学英語を履修済みであること。
外109	英語プレゼンテーション演習 上級	2	1-1	1~4	前・後	英語プレゼンテーション演習 中級よりさらに高度な音声・文字による英語メディアや、専門分野の英文教材の理解を元に、リサーチした情報を英語で論理的にプレゼンテーションする能力を養う。	大学英語を履修済みであること。英語プレゼンテーション演習 中級を履修済みであることが望ましい。
外110	TOEIC演習	2	1-1	1~4	前・後	国際社会に適応できる英語運用能力の指標であるTOEICの試験の受験を目指す学生に対し、出題内容に即した指導を行う。	大学英語を履修済みであること。
外111	TOEFL演習	2	1-1	1~4	前・後	アメリカ、カナダをはじめとした、英語圏の留学に際し、英語運用能力の証明として不可欠なTOEFLの受験を目指す学生に対し、出題内容に即した指導を行う。	大学英語を履修済みであること。

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【基幹領域：外国語科目】

科目 番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	講 義 内 容	備 考
外112	英検準1級演習	2	1-1	1~4	前・後	国際社会に適応できる英語運用能力の指標となる英語検定試験の準1級の取得を目指す学生に対し、出題内容に即した指導を行う。	大学英語を履修済みであること。
外113	特定英語課題演習 I	2	1-1	1~4	前・後	映画、演劇、音楽、文学などを通じて、イギリス、アメリカ、アイルランド、カナダ、オーストラリアをはじめとした英語圏の文化に対する深い理解力を養成する。	大学英語を履修済みであること。
外114	特定英語課題演習 II	2	1-1	1~4	前・後	国際的舞台で活躍する際に不可欠な観光、ビジネスなど特定の分野で使われる英語を実践的な訓練を通じて習得させることを目的とする。	大学英語を履修済みであること。
外201	ドイツ語入門 I	2	2-0	1~4	前	ドイツ語とはどのような言葉か。アルファベット、発音の基本、日常の会話表現などを学びながら、ドイツ語に親しむ。	
外202	ドイツ語入門 II	2	2-0	1~4	後	ドイツ語入門 I の続き。	原則としてドイツ語入門 I を履修していること。
外203	ドイツ語入門 III	2	2-0	2~4	前	ドイツ語入門 II の続き。ドイツ語の基礎的なコミュニケーション力を養成する。	原則としてドイツ語入門 II、またはインテンシブドイツ語 I を履修していること。
外204	ドイツ語入門 IV	2	2-0	2~4	後	ドイツ語入門 III の続き。	原則としてドイツ語入門 III を履修していること。
外205	ドイツ語会話入門 I	2	2-0	2~4	前	聴き、話すという面からのドイツ語運用能力の拡充を目指すクラス。	原則としてドイツ語入門 I、II、またはインテンシブドイツ語 I を履修していること。
外206	ドイツ語会話入門 II	2	2-0	2~4	後	ドイツ語会話入門 I の続き。	原則としてドイツ語会話入門 I を履修していること。
外207	インテンシブドイツ語 I	4	4-0	1~4	前	ドイツ語の言語運用能力を習得するための初級クラス。読み、書き、聴き、話すための基礎を学ぶ。	
外208	インテンシブドイツ語 II	4	4-0	1~4	後	インテンシブドイツ語 I の続き。	原則としてインテンシブドイツ語 I、またはドイツ語入門 II を履修していること。
外209	インテンシブドイツ語 III	2	2-0	2~4	前	より高度な言語運用能力を養成するための中級クラス。	原則としてインテンシブドイツ語 II、またはドイツ語入門 IV を履修していること。

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【基幹領域：外国語科目】

科目 番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	講 義 内 容	備 考
外210	インテンシブドイツ語IV	2	2-0	2~4	後	インテンシブドイツ語IIIの続き。	原則としてインテンシブドイツ語IIIを履修していること。
外211	ドイツ語圏文化入門	2	2-0	2~4	前又は後	ドイツやドイツ語圏の文化を言語学習の視点から概観する。	原則としてドイツ語入門I、II、またはインテンシブドイツ語Iを履修していること。
外301	フランス語入門I	2	2-0	1~4	前	フランス語とはどのような言葉か。アルファベット、発音の基本、日常の会話表現などを学びながら、フランス語に親しむ。	
外302	フランス語入門II	2	2-0	1~4	後	フランス語入門Iの続き。	原則としてフランス語入門Iを履修していること。
外303	フランス語入門III	2	2-0	1~4	前	フランス語入門IIの続き。フランス語の基礎的なコミュニケーション力を養成する。	原則としてフランス語入門II、またはインテンシブフランス語Iを履修していること。
外304	フランス語入門IV	2	2-0	1~4	後	フランス語入門IIIの続き。	原則としてフランス語入門IIIを履修していること。
外305	フランス語会話入門I	2	2-0	2~4	前	聴き、話すという面からのフランス語運用能力の拡充を目指すクラス。	原則としてインテンシブフランス語II、またはフランス語入門IVを履修していること。
外306	フランス語会話入門II	2	2-0	1~4	後	フランス語会話入門Iの続き。	原則としてフランス語会話入門Iを履修していること。
外307	インテンシブフランス語I	4	4-0	1~4	前	フランス語の言語運用能力を習得するための初級クラス。読み、書き、聴き話すための基礎を学ぶ。	
外308	インテンシブフランス語II	4	4-0	1~4	後	インテンシブフランス語Iの続き。	原則としてインテンシブフランス語I、またはフランス語入門IIを履修していること。
外309	インテンシブフランス語III	2	2-0	1~4	前	より高度な言語運用能力を養成するための中級クラス。	原則としてインテンシブフランス語II、またはフランス語入門IVを履修していること。
外310	インテンシブフランス語IV	2	2-0	1~4	後	インテンシブフランス語IIIの続き。	原則としてインテンシブフランス語IIIを履修していること。

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【基幹領域：外国語科目】

科目 番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	講 義 内 容	備 考
外311	フランス語圏文化入門	2	2-0	2~4	前又は後	フランスやフランス語圏の文化を言語学習の視点から概観する。	原則としてフランス語入門Ⅱ、あるいはインテンスイブフランス語Ⅰを履修していること。
外401	スペイン語入門Ⅰ	2	2-0	1~4	前	スペイン語とはどのような言葉か。アルファベット、発音の基本、日常の会話表現などを学びながらスペイン語に親しむ。	
外402	スペイン語入門Ⅱ	2	2-0	1~4	後	スペイン語入門Ⅰの続き。	原則としてスペイン語入門Ⅰを履修していること。
外403	スペイン語入門Ⅲ	2	2-0	2~4	前	スペイン語入門Ⅱの続き。スペイン語の基礎的なコミュニケーション力を養成する。	原則としてスペイン語入門Ⅱ、またはインテンスイブスペイン語Ⅰを履修していること。
外404	スペイン語入門Ⅳ	2	2-0	2~4	後	スペイン語入門Ⅲの続き。	原則としてスペイン語入門Ⅲを履修していること。
外405	スペイン語会話入門Ⅰ	2	2-0	2~4	前	聴き、話すという面からのスペイン語運用能力の拡充を目指すクラス。	原則としてスペイン語入門Ⅰ、Ⅱまたはインテンスイブスペイン語Ⅰを履修していること。
外406	スペイン語会話入門Ⅱ	2	2-0	2~4	後	スペイン語会話入門Ⅰの続き。	原則としてスペイン語会話入門Ⅰを履修していること。
外407	インテンスイブスペイン語Ⅰ	4	4-0	1~4	前	スペイン語の言語運用能力を習得するための初級クラス。読み、書き、聴き話すための基礎を学ぶ。	
外408	インテンスイブスペイン語Ⅱ	4	4-0	1~4	後	インテンスイブスペイン語Ⅰの続き。	原則としてインテンスイブスペイン語Ⅰ、またはスペイン語入門Ⅱを履修していること。
外409	インテンスイブスペイン語Ⅲ	2	2-0	2~4	前	より高度な言語運用能力を養成するための中級クラス。	原則としてインテンスイブスペイン語Ⅱ、またはスペイン語入門Ⅳを履修していること。
外410	インテンスイブスペイン語Ⅳ	2	2-0	2~4	後	インテンスイブスペイン語Ⅲの続き。	原則としてインテンスイブスペイン語Ⅲを履修していること。
外411	スペイン語圏文化入門	2	2-0	2~4	前又は後	スペインやスペイン語圏の文化を言語学習の視点から概観する。	原則としてスペイン語入門Ⅰ、Ⅱ、またはインテンスイブスペイン語Ⅰを履修していること。

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【基幹領域：外国語科目】

科目 番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	講 義 内 容	備 考
外501	中国語基礎 I	4	0-4	1~4	前	はじめて中国語を学ぶ者のための入門クラス。正確に発音し、聞き、話し、読み、書く技能の基礎的で総合的な訓練を行う。 1)基礎文法の理解、 2)簡単な日常会話の修得、 3)基礎的な読解力の養成、 4)社会／文化の理解を学習目標とする。	
外502	中国語基礎 II	4	0-4	1~4	後	中国語基礎 I の続き。	中国語基礎 I を既に履修していること。
外503	中国語中級	4	0-4	2~4	前	中国語基礎 I、II で修めた知識を基に、語彙を拡充し、基本構文についての理解を深め、総合的なコミュニケーション能力の基礎を養成する。	中国語基礎 II を既に履修していること。
外504	中国語講読	2	2-0	2~4	後	易しい読み物を教材とし、読解力を養成する。	中国語基礎 I、II を既に履修していること。 中国語中級を履修していることが望ましい。
外505	中国語演習	2	2-0	2~4	後	会話・スピーチ・作文等の実用的コミュニケーション能力の訓練を行う。	中国語基礎 I、II を既に履修していること。 中国語中級を履修していることが望ましい。
外506	中国語上級	2	2-0	3~4	前	種々の教材を講読し、内容を全体的に把握することに重点を置いて、読解力を養成する。	中国語基礎 I、II を既に履修していること。 中国語中級を履修していることが望ましい。
外507	中国語特演	2	2-0	3~4	後	語学演習をゼミナール形式によって行う。	中国語基礎 I、II を既に履修していること。
外508	中国語会話	2	2-0	2~4	前又は後	各種視聴覚教材を活用しながら、聞き取り訓練及び口頭による基礎的表現能力の訓練を行う。	中国語基礎 I、II を既に履修していること。
外509	時事中国語	2	2-0	2~4	前又は後	特定のテーマ(アクチュアルな社会及び文化現象等)にそって、様々な資料を活用しながらその国の風俗・習慣・歴史・文化に対する理解を深める。	中国語基礎 I、II を既に履修していること。
外510	中国語作文	2	2-0	3~4	前又は後	中国語の作文を学び、併せて手紙、ビジネスレター、Eメールなどの作法を学ぶ。	中国語基礎 I、II を既に履修していること。
外511	実践中国語	2	2-0	3~4	前	中国社会における様々な状況を想定し、実践的な中国語の表現力・会話力を身につける。また、中国語圏での留学経験者に対しても、当科目を履修することで、より一層のレベルアップを図る。	外国語科目「中国語」関連科目を既に8単位以上履修していること。

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【基幹領域：外国語科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
外601	朝鮮語基礎 I	4	0-4	1~4	前	はじめて朝鮮語を学ぶ者のための入門クラス。正確に発音し、聞き、話し読み、書く技能の基礎的で総合的な訓練を行う。 1)基礎文法の理解、 2)簡単な日常会話の修得、 3)基礎的な読解力の養成、 4)社会/文化の理解を学習目標とする。	
外602	朝鮮語基礎 II	4	0-4	1~4	後	朝鮮語基礎 I の続き。引き続き、 1)基礎文法の理解、 2)簡単な日常会話の修得、 3)基礎的な読解力の養成、 4)社会/文化の理解を学習目標とする。	朝鮮語基礎 I を既に履修していること。
外603	朝鮮語中級	4	0-4	2~4	前	朝鮮語基礎 I、II で修めた知識を基に語彙を拡充し基本構文についての理解を深める総合的なコミュニケーション能力基礎を養成する。	朝鮮語基礎 I、II を既に履修していること。
外604	朝鮮語講読	2	2-0	2~4	後	朝鮮語中級の続き、易しい読み物を教材とし読解力を養成する。	朝鮮語中級を既に履修していること。
外605	朝鮮語演習	2	2-0	2~4	後	朝鮮語中級の続き・会話・スピーチ・作文等の実用的コミュニケーション能力の訓練を行う。	朝鮮語中級を既に履修していること。
外701	インドネシア語基礎 I	4	0-4	1~4	前	はじめてインドネシア語を学ぶ者のための入門クラス。正確に発音し、聞き、話し、読み、書く技能の基礎的で総合的な訓練を行う。 1)基礎文法の理解、 2)簡単な日常会話の修得、 3)基礎的な読解力の養成、 4)社会/文化の理解を学習目標とする。	
外702	インドネシア語基礎 II	4	0-4	1~4	後	インドネシア語基礎 I の続き。	インドネシア語基礎 I を既に履修していること。
外711	タイ語基礎 I	4	0-4	1~4	前	はじめてタイ語を学ぶ者のための入門クラス。正確に発音し、聞き、話し、読み、書く技能の基礎的で総合的な訓練を行う。 1)基礎文法の理解、 2)簡単な日常会話の修得、 3)基礎的な読解力の養成、 4)社会/文化の理解を学習目標とする。	
外712	タイ語基礎 II	4	0-4	1~4	後	タイ語基礎 I の続き。	タイ語基礎 I を既に履修していること。
外731	ラテン語入門 I	2	2-0	1~4	前	ラテン語とはどのような言葉か。ヨーロッパの文化的伝統を支えてきた教養古典語に親しむための入門クラス。	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【基幹領域：外国語科目】

科目 番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	講 義 内 容	備 考
外732	ラテン語入門Ⅱ	2	2-0	1~4	後	ラテン語入門Ⅰの続き。	原則としてラテン語入門Ⅰを履修していること。
外751	ロシア語入門Ⅰ	2	2-0	1~4	前	ロシア語とはどのような言葉か。アルファベット、発音の基本、日常の会話表現などを学びながら、ロシア語に親しむ。	
外752	ロシア語入門Ⅱ	2	2-0	1~4	後	ロシア語入門Ⅰの続き。	原則としてロシア語入門Ⅰを履修していること。

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【専門基礎科目：先修科目】

科目番号	授業科目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	講 義 内 容	備 考
先03	線形代数学Ⅰ	2	2-0	1~4	前	行列・行列式・連立一次方程式等を詳細に講義する。	
先04	線形代数学Ⅱ	2	2-0	1~4	後	ベクトル空間、一次変換、固有値等を講義する。	線形代数学Ⅰを履修していることが望ましい。
先05	線形代数学演習Ⅰ	2	0-2	1	前	線形代数学Ⅰの問題解法。	理学部・数理科
先06	線形代数学演習Ⅱ	2	0-2	1	後	線形代数学Ⅱの問題解法。	理学部・数理科
先07	統計学	2	2-0	1	前	資料の整理、確率分布、推定・検定等について概説する。	医学科用
先08	統計学Ⅰ	2	2-0	1~4	前	確率、資料の整理、2項分布、正規分布、 χ -分布等。	
先09	統計学Ⅱ	2	2-0	1~4	後	推定・検定・分散分析等。	統計学Ⅰを履修していることが望ましい。
先11	微分積分学ST(スタンダードコース)Ⅰ	2	2-0	1	前	数学系以外の学生を対象とし、具体問題の計算能力と微分積分学の応用の側面を重視して講義を行う。講義内容は極限、1変数関数の微分法と積分法である。	
先12	微分積分学ST(スタンダードコース)Ⅱ	2	2-0	1	後	数学系以外の学生を対象とし、具体問題の計算能力と微分積分学の応用の側面を重視して講義を行う。講義内容は、2変数関数の偏微分法と重積分である。	微分積分学STⅠを履修していることが望ましい。
先13	微分積分学AD(アドバンスコース)Ⅰ	2	2-0	1	前	数学系学生を念頭に、微分積分学の理論的側面を強調して講義を行う。講義内容は実数論、 ϵ - δ 論法による極限、1変数関数の微分法と積分法である。	
先14	微分積分学AD(アドバンスコース)Ⅱ	2	2-0	1	後	数学系学生を念頭に、微分積分学の理論的側面を強調して講義を行う。講義内容は ϵ - δ 論法による級数、2変数関数の偏微分法と重積分である。	微分積分学ADⅠを履修していることが望ましい。
先21	地学実験	1	0-3	1	後	理科系学生を対象とする地学・気象学の基礎的実験。	
先23	地球科学Ⅰ	2	2-0	1~3	前	おもに固体地球科学分野の基礎的な講義で、地球の構造、プレートテクトニクス、地震と火山、鉱物と岩石、火成・変成作用などを含む。	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【専門基礎科目：先修科目】

科目 番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	講 義 内 容	備 考
先24	地球科学Ⅱ	2	2-0	1~3	後	地球の水圏、大気圏に関する科学の概説。 理系学生を対象とし、ある程度数式を用いた講義内容。	
先31	物理学Ⅰ	2	2-0	1~4	前	高等学校で物理学を履修した理科系学生を対象とし、物理学の基礎的な内容を理解させる。講義は、主として力学を中心として行う。	
先32	物理学Ⅱ	2	2-0	1~4	後	高等学校で物理学を履修した理科系学生を対象とし、物理学の基礎的な内容を理解させる。講義は、主として電磁気学を中心として行う。	物理学Ⅰに引き続き講義を行うので、物理学Ⅰを履修していることが望ましい。
先33	物理学実験	1	0-2	1~4	第1Q 第2Q 第3Q 第4Q	理科系学生を対象とし、個々の実験を通して物理学の基礎的な内容を理解させる。	
先41	化学Ⅰ	2	2-0	1~4	前・後	高等学校で化学基礎と化学を履修した理科系学生を対象とし高等学校では履修していない化学に関する基礎事項を概説する。	
先42	化学Ⅱ	2	2-0	1~4	前・後	高等学校で化学基礎と化学を履修した理科系学生を対象とし「化学Ⅰ」に引き続き高等学校では履修していない化学に関する基礎事項を概説する。	化学Ⅰに引き続き講義を行うので、化学Ⅰを履修していることが望ましい。
先43	化学実験	1	0-3	1~4	前・後	無機・分析化学、物理化学、有機化学に関する基礎的あるいは教育的と思われる実験を行う。実験のテーマのいくつかは高校の授業で既になじみ深いものであり、それ以外のテーマも化学について高度の知識を必要とするものはない。	
先51	生物学Ⅰ	2	2-0	1~2	前・後	生物について、主としてマクロの生命現象の理解、生物と生物の生活の関わり、環境と生物の関わりに重点をおき、理解を深めさせる。	
先52	生物学Ⅱ	2	2-0	1~2	前・後	生物について、主としてミクロの生命現象に関わる諸現象を理解させる。	
先53	生物学実験	1	0-3	1~2	前・後	生物に関する基礎的な実験・観察。	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【専門基礎科目：転換科目】

科目 番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	講 義 内 容	備 考
転03	微分積分学入門Ⅰ	2	2-0	1	前・後	弧度法、三角関数、逆三角関数、指数関数、対数関数について詳しい丁寧な説明を行い、続いて1変数の微分法およびその応用について講義する。高校で「数学Ⅲ」を履修してきていない学生を対象にした講義である。	
転04	微分積分学入門Ⅱ	2	2-0	1	後	微分積分学入門Ⅰの続き。1変数の微分法とその応用について講義する。なお、時間があれば、2変数関数の2階までの偏微分の計算、合成関係の偏微分および重積分の基本にも触れる。高校で「数学Ⅲ」を履修してきていない学生を対象とした講義である。	
転11	物理学入門Ⅰ	2	2-0	1~2	前	高等学校で物理学を履修していない、あるいは物理基礎のみを履修している理科系学生を対象とし、初歩から始めて物理学の基礎的な内容を理解させる。講義は、数学の基礎についても留意しながら、主として力学を中心として行う。	
転12	物理学入門Ⅱ	2	2-0	1~2	後	高等学校で物理学を履修していない、あるいは物理基礎のみを履修している理科系学生を対象とし、初歩から始めて物理学の基礎的な内容を理解させる。講義は、数学の基礎についても留意しながら、主として電磁気学を中心として行う。	物理学入門Ⅰに引き続き講義を行うので、物理学入門Ⅰを履修していることが望ましい。
転23	化学入門Ⅰ	2	2-0	1~2	前・後	高等学校で化学基礎と化学を履修していない、あるいは化学基礎のみを履修している理科系学生を対象とし、初歩から始めて化学の基礎的な内容を概説する。	
転24	化学入門Ⅱ	2	2-0	1~2	前・後	高等学校で化学基礎と化学を履修していない、あるいは化学基礎のみを履修している理科系学生を対象とし、「化学入門Ⅰ」に引き続き化学の基礎的な内容を理解させる。	化学入門Ⅰに引き続き講義を行うので、化学入門Ⅰを履修していることが望ましい。

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【日本語・日本事情科目】

科目 番号	授業科目	単 位	週時間	受講 年次	学 期	講 義 内 容	備 考
日107	文法C2S	2	0-2		前	上級前半/文法	外国人留学生対象
日108	文法C2F	2	0-2		後	上級前半/文法	外国人留学生対象
日203	読解B2S	2	0-2		前	中級中盤/読解	外国人留学生対象
日204	読解B2F	2	0-2		後	中級中盤/読解	外国人留学生対象
日205	読解C1S	2	0-2		前	中級後半/読解	外国人留学生対象
日206	読解C1F	2	0-2		後	中級後半/読解	外国人留学生対象
日208	読解C2F	2	0-2		後	上級前半/読解	外国人留学生対象
日303	聴解B2S	2	0-2		前	中級中盤/聴解	外国人留学生対象
日304	聴解B2F	2	0-2		後	中級中盤/聴解	外国人留学生対象
日305	聴解C1S	2	0-2		前	中級後半/聴解	外国人留学生対象
日306	聴解C1F	2	0-2		後	中級後半/聴解	外国人留学生対象
日307	聴解C2S	2	0-2		前	上級前半/聴解	外国人留学生対象
日308	聴解C2F	2	0-2		後	上級前半/聴解	外国人留学生対象
日405	アカデミック日本語C1S	2	0-2		前	中級後半/研究活動のための日本語	外国人留学生対象
日406	アカデミック日本語C1F	2	0-2		後	中級後半/研究活動のための日本語	外国人留学生対象
日407	アカデミック日本語C2S	2	0-2		前	上級前半/研究活動のための日本語	外国人留学生対象
日408	アカデミック日本語C2F	2	0-2		後	上級前半/研究活動のための日本語	外国人留学生対象
日505	会話C1S	2	0-2		前	中級後半/会話	外国人留学生対象
日506	会話C1F	2	0-2		後	中級後半/会話	外国人留学生対象
日507	会話C2S	2	0-2		前	上級前半/会話	外国人留学生対象
日603	漢字B2S	1	0-2		前	中級中盤/漢字・語彙	外国人留学生対象
日604	漢字B2F	1	0-2		後	中級中盤/漢字・語彙	外国人留学生対象
日701	口頭表現C1S	2	0-2		前	中級後半/討論、発表	外国人留学生対象
日702	口頭表現C1F	2	0-2		後	中級後半/討論、発表	外国人留学生対象
日703	口頭表現C2S	2	0-2		前	上級前半/討論、発表	外国人留学生対象
日704	口頭表現C2F	2	0-2		後	上級前半/討論、発表	外国人留学生対象
日802	ビジネス日本語入門	2	0-2		前	中級前半/日本での就職のための日本語	外国人留学生対象
日803	ビジネス日本語 I	2	0-2		前及び後	中級中盤/日本での就職のための日本語	外国人留学生対象
日804	ビジネス日本語 II	2	0-2		前及び後	中級後半/日本での就職のための日本語	外国人留学生対象
日915	沖縄の文化 I	2	2-0		前	中級・上級/沖縄の文化と社会	外国人留学生対象
日916	沖縄の文化 II	2	2-0		後	中級・上級/沖縄の文化と社会	外国人留学生対象
日925	沖縄の歴史 I	2	2-0		前	中級以上/沖縄の歴史	外国人留学生対象
日926	沖縄の歴史 II	2	2-0		後	中級以上/沖縄の歴史	外国人留学生対象

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【日本語・日本事情科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
日955	日本の文化 I	2	2-0		前	中級以上/日本の文化と社会	外国人留学生対象
日956	日本の文化 II	2	2-0		後	中級以上/日本の文化と社会	外国人留学生対象
日965	日本の歴史 I	2	2-0		前	中級以上/日本の歴史	外国人留学生対象
日966	日本の歴史 II	2	2-0		後	中級以上/日本の歴史	外国人留学生対象
日983	日本語B2S	4	2-2		前	中級後半 (JF日本語教育スタンダードB2レベル) の日本語力習得を目指す受講者を対象に、中級以上の文法項目の学習を通し、身近なコンテキストの議論へ参加し、興味関心のある分野については明瞭で詳細な説明が行える能力を養う。	外国人留学生対象 指定されたプレースメントテストを受験していること。または、国際教育センターの担当コーディネーターによる履修指導を受けていること。
日984	日本語B2F	4	2-2		後	中級後半 (JF日本語教育スタンダードB2レベル) の日本語力習得を目指す受講者を対象に、中級以上の文法項目の学習を通し、身近なコンテキストの議論へ参加し、興味関心のある分野については明瞭で詳細な説明が行える能力を養う。	外国人留学生対象 指定されたプレースメントテストを受験していること。または、国際教育センターの担当コーディネーターによる履修指導を受けていること。